

ヒトT細胞活性化及び拡大培養用培地

KBM 551

本製品は原薬等登録原簿及びFDA ドラッグマスターファイルに登録されています。

用途

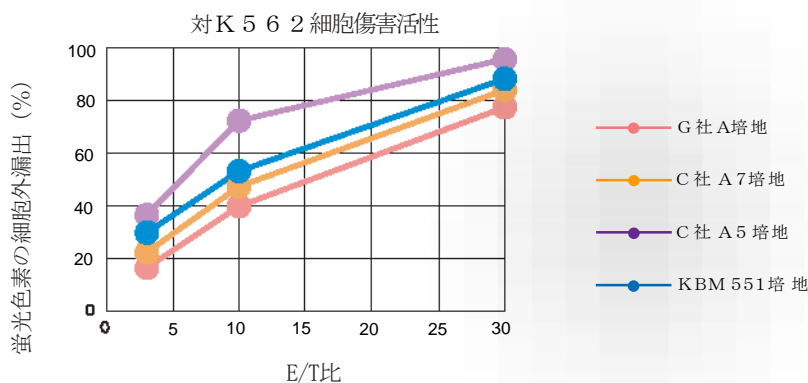
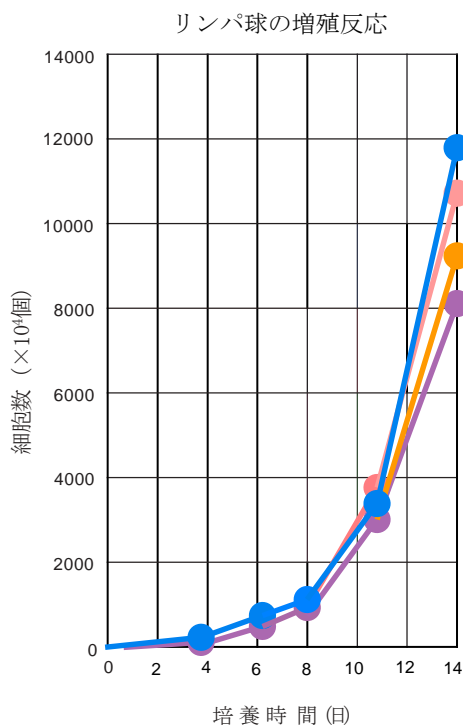
本製品は、主に固相化抗CD3抗体で刺激したヒト末梢血T細胞のインターロイキン-2に依存した活性化培養及びその後の拡大培養に使用します。(ヒトインターロイキン-2の添加が必要です。)

特長

- ヒト血清アルブミン及び組換え型ヒトインスリン以外のタンパク質は添加されていません。
- 抗生物質として硫酸カナマイシンを含みます。
- 保存性に優れています。
- インターロイキン-2などのサイトカインは不含有です。
- 活性化培養の開始時に5~10%の血清(血漿)及び必要量のヒトインターロイキン-2を添加してお使いください。
拡大培養時にもヒトインターロイキン-2の添加が必要ですが、血清(血漿)の添加は省略できる場合もあります。



培養例



[培養条件]

細胞：成人健常者末梢血単核球

培地：KBM 551+組換え型ヒトインターロイキン-2(175IU/mL)

培養開始時のみ非働化済み自己血漿(5%)を添加

容器：抗ヒトCD3抗体固相化12穴培養用プレート

培養： 6×10^5 cells/mLで播種し、37°C・5%炭酸ガス環境下で静置培養

増殖に応じて、培養物を血漿不含・組換え型ヒトインターロイキン-2含有培地で拡大培養

分析：培養14日目にテラスキャン(細胞傷害試験用自動測定装置)を用いて、腫瘍細胞株K562に対する傷害活性を、蛍光色素の細胞外漏出を指標として測定

製品コード	製品名	容量	定価	有効期限	保存温度
16025510	KBM 551	1000 mL	12,000円	製造後8カ月	2-8°C

* 本製品は研究用試薬であり、ヒトまたは動物の治療用ではありません。